

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、拡大に向けたテンポが緩やかになっている」

項目	前回（元年10月判断）	今回（2年1月判断）	前回比較
総括判断	拡大に向けたテンポが緩やかになっている	拡大に向けたテンポが緩やかになっている	→

（注）2年1月判断は、前回元年10月判断以降、2年1月に入ってからからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっているほか、百貨店・スーパー販売が緩やかに回復していることなどから、緩やかに拡大しつつある。生産活動は、電子部品・デバイスが弱含んでいることや生産用機械が横ばいの状況にあることなどから、全体では横ばいの状況にある。雇用情勢は、着実に改善しており、依然として人手不足感が強い状況にある。

## 【各項目の判断】

項目	前回（元年10月判断）	今回（2年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに拡大しつつある	緩やかに拡大しつつある	→
生産活動	横ばいの状況にある	横ばいの状況にある	→
雇用情勢	着実に改善しており、依然として人手不足感が強い状況にある	着実に改善しており、依然として人手不足感が強い状況にある	→
設備投資	元年度は増加見込みとなっている	元年度は増加見込みとなっている	→
企業収益	元年度は減益見込みとなっている	元年度は減益見込みとなっている	→
住宅建設	持ち直している	持ち直しの動きに一服感がみられる	→

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、景気が緩やかに拡大していくことが期待される。ただし、通商問題を巡る動向、中国経済の先行きなど海外経済の動向や、人手不足に伴う影響等に留意する必要がある。また、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向にも留意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに拡大しつつある」

百貨店・スーパー販売は、百貨店、スーパーともに衣料品の動きが鈍いことなどから前年を下回っているが、11月は10月から回復しているほか、足下では化粧品や高額品を中心に動きがみられる。以上のような状況を踏まえると、9月の売上増の反動等はみられるものの、全体では緩やかに回復している。コンビニエンスストア販売は、総菜等に動きがみられることから、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品に動きがみられることなどから、順調となっている。ホームセンター販売は、除雪用品等の季節商品の動きが鈍いことなどから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、前年を下回っているが、10月からは上向いており、足下でもパソコン等に動きがみられる。こうした状況から、9月の売上増の反動等はみられるものの、回復しつつある。新車販売台数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに前年を下回っており、回復の動きに一服感がみられる。主要観光地の来訪客数及び主要温泉地の宿泊客数は前年を下回っている。旅行取扱実績は、海外旅行に動きがみられるものの、国内旅行の動きが鈍いことから、弱含んでいる。以上のことから、個人消費については、緩やかに拡大しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 衣料品について、気温が高く推移した影響で、特に重衣料が厳しい状況であった。(スーパー、大企業)
- 季節ものの衣料品について、例年動き出し始める10月中旬に台風が発生したために、客足が伸び悩んだことや、気温が下がらなかったことなどから、動きが鈍かった。(百貨店)
- 化粧品について、デパコス人気が底堅く、11月は前月より大きく持ち直している。また、ブランド品について、駆け込みとその反動の期間を均してみると、前年の売上を上回っている。(百貨店)
- 中食・簡便需要を引き続き感じており、固定客がいることもあって総菜は好調が続いている。(コンビニエンスストア、大企業)
- 軽減税率の適用があるため、飲食料品は順調に推移している。(ドラッグストア、大企業)
- OSのサポート終了に伴い、パソコンの買い替え需要がみられている。(家電大型専門店、大企業)
- 消費税率引上げに伴う駆け込みの反動により、受注・登録ともに前年を下回っているものの、主力車種の人気もあり、前回引上げ時と比べると反動は小さい。また、11月の受注は新型車効果により前年を上回った。(自動車販売店、中小企業)

### ■ 生産活動 「横ばいの状況にある」

電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に弱含んでいる。化学は、大宗を占める医薬品が後発医薬品を中心に拡大している。生産用機械は、金属加工機械が持ち直しているものの、繊維機械が弱含んでいることなどから、全体では横ばいの状況にある。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、住宅用、ビル用ともに弱い動きとなっている。繊維は、衣料向け、非衣料向けともに持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。以上のことから、生産活動については、横ばいの状況にある。

- 車載向けは回復傾向にあるものの、スマートフォン向けは機能性の頭打ち感のほか、中国の景気減速や買い替えサイクルの長期化等による販売不振の影響から、全体では前年比で生産数量は減少している。(電子部品・デバイス、大企業)
- 足下は数量、金額ともに前四半期比で横ばいから若干の増加。工場は引き続きフル稼働状態となっており、受注に生産が追いつかないため、2交代制や休日稼働を導入し対応している状況。(化学工業、中小企業)
- 米中貿易摩擦に伴う中国経済の減速によって、投資への慎重姿勢が広がっており、中国向けが弱含んでいることに加え、インド向けも取引先の資金調達環境の回復が遅れており、動きが鈍い。(生産用機械、大企業)

### ■ 雇用情勢 「着実に改善しており、依然として人手不足感が強い状況にある」

雇用保険受給者実人員は前年を上回っている。また、新規求人数は前年を下回っている。一方、新規求職者数は前年を下回っており、有効求人倍率が高水準で推移している。以上のことから、雇用情勢は、着実に改善しており、依然として人手不足感が強い状況にある。

- 引き続き人手不足の状況と言える。中途採用を募集しても人が集まりにくい。工場でのワーカーについても採用しにくい。特に専門的な技術をもっている人材の確保に苦戦している。(化学工業、大企業)
- 引き続きパート・アルバイトについて人手不足感が強い。特に特売日など忙しい時期に人手が不足している。新規店舗の募集についてもなかなか集まらず、どうしても必要な場合は既存店の従業員でカバーしている。(スーパー、大企業)
- 人手不足感の特段感じておらず、新製品などの一部ラインで一時的に不足しても拠点間の応援で対応が可能なレベル。派遣社員もかつては募集しても集まらなかったが、今はすぐに雇えるようになった。(金属製品、大企業)

➤ 有効求人数は、製造業を中心として新規求人が減少したことが主な要因となって減少したことに加え、有効求職者数が増加したことから、有効求人倍率は低下した。(労働局)

■ **設備投資** 「元年度は増加見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」元年10-12月期

- 製造業では、自動車・同附属品などが減少となるものの、金属製品、化学工業などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、金融、保険などが減少となるものの、不動産、情報通信などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。

➤ 生産設備の維持更新や修繕などにより増加見込み。(金属製品、大企業)  
 ➤ 生産設備増強や新工場の建設などにより増加見込み。(化学工業、大企業)  
 ➤ ネットワーク通信網の整備などにより増加見込み。(情報通信、大企業)

■ **企業収益** 「元年度は減益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」元年10-12月期

- 製造業では、金属製品などが増益となるものの、生産用機械器具、自動車・同附属品などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、建設などが増益となるものの、学術研究、専門・技術サービス、小売などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」元年10-12月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「下降」超となっている。先行きは、「下降」超となる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「持ち直しの動きに一服感がみられる」

- 新設住宅着工戸数でみると、持ち直しの動きに一服感がみられる。

■ **公共事業** 「前年を上回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、前年を上回っている。

■ **金融機関の貸出金** 「前年を上回っている」

- 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。

■ **企業倒産** 「前年を下回っている」

- 負債総額は前年を上回っているものの、件数は前年を下回っている。

■ **消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合)** 「前年を上回っている」

- 消費者物価指数でみると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前 回 (元年10月判断)	今 回 (2年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	回復している	回復している		生産活動は横ばいの状況にあるものの、個人消費は緩やかに拡大しつつある。また、雇用情勢は着実に改善しており、依然として人手不足感が強い状況にある。
富山県	回復している	回復のテンポが緩やかになっている		個人消費は回復しており、生産は横ばいの状況にある。また、雇用情勢は着実に改善しており、依然として人手不足感が強い状況にある。
福井県	拡大に向けたテンポが緩やかになっている	拡大に向けたテンポが緩やかになっている		生産は横ばいの状況にあるほか、個人消費は拡大に向けたテンポが緩やかになっている。また、雇用情勢は着実に改善しており、依然として人手不足感が強い状況にある。